



# 今すぐ ネット証券口座を 開きなさい

*Yokuutsu Shozo*

翼打正三

# 『Boon-gate』のPDF作品を ご覧いただく前に…

## 操作について

- 作品の多くは「もくじ」のページで、進みたいページの項目を押せば、そのページまでジャンプし、また、ジャンプしたページのタイトルを押せば、目次のページに戻るよう設定しております。
- 直前に開いていたページに戻るには、画面上の「◀」ボタンで、直前に開いていたページに戻ります。

## 読み方いろいろ

- 通常は画面の「倍率」が100%前後になっていますが、「倍率」を150%まで高めると文字が読みやすい大きさになります。
- 通常は「見開きページ」で設定されていますが、「単一ページ」にすると読みやすく感じます。
- 読み進めるときは、「十字キー」を使用すると手軽です。
- 「サムネイル機能」を使用して読み進めると、2～3頁からとばし読みするのに便利です。
- 頁を「回転」させることが可能です。地図などを拡大して見るときに便利です。

[http://www.bungeisha.com/PDF is/05-top1.html](http://www.bungeisha.com/PDF_is/05-top1.html) でPDF作品についての説明を致しております。ご参照ください。

# 今すぐ ネット証券口座を 開きなさい



*Yokuutsu Shozo*

**翼打正三**



## はじめに

今や、インターネットを使った株式の売買は一般的になった。テレビでは、会社を辞めてデイトレーダーになった人を紹介し、口座を持った一般の主婦から、果ては小学生まで株取引をする時代だ。株取引を行う一般投資家はここ数年で急激に増えた。

2006年初頭の今日、日経平均は順調に回復し、上昇を続けている。

株をまだ始めていない人、これから始めたい人にとってまさに絶好な時期と言える。

しかし、株式取引は必ず儲かるというものでもない。

そこで、私が実践しているローリスクな方法から、ハイリスクだがハイリターンが期待できる方法まで、実体験をもとに紹介しようと思う。

この本は、特定の方法を紹介したものではない。さまざまな手法の中からあなたが一番

合うと思う方法を選択してほしいと思っっている。

できるだけたくさんの手法を紹介するという趣旨から、一部私が行っている方法ではなく、私の身近な人物の話も取り入れている。私の身近な人物とは私の両親だ。

私は数年前、病気になってしまい会社を休職しなければならなかった。入院する必要がある臨時の出費がかさんだ。また、当然だが給料も減額された。

そんな私は以前読んだ、日本でもベストセラーになった「金持ち父さん、貧乏父さん」シリーズの内容を思い出し、その通りだと痛感した。

所得には三種類あり、それぞれ勤労所得、不労所得、ポートフォリオ所得と呼ばれる。

大抵の人は勤労所得のみにより収入を得ているため、不測の事態が起こると経済的危機にさらされる。私のように病気になり、働けなくなると大抵の人は収入を得る手段を失い、場合によっては極度の生活苦に陥る。

不幸中の幸いだったのが、私には多少の蓄えがあり、その場をしのぐことができた。しかし、あの頃の出費と収入の減少は決して喜ばしいものではなかった。損をして喜ぶ人が

いるだろうか。私と同じ立場になれば誰でもそう思うだろう。

「金持ち父さん、貧乏父さん」の著者、ロバート・キヨサキ氏がたびたび書いている「経済的な自由」を得るためには、勤労所得のみの生活スタイルでは難しいのである。

私は、病気が快方に向かい、退院の時期が近づいてくると本格的に株式の勉強をするようになった。

実はそれ以前も「金持ち父さん、貧乏父さん」を読み終えた頃から株を売買するようになっていたが、最初はお遊び程度だった。

金額もそれほどかけず、ローリスク・ローリターンに徹していた。当時割安だった鉄鋼株を少量買って、1ヶ月に1万円程度の利益が出ればそれで大喜びするような、まさに小遣い稼ぎ程度だった。

だが、病気を境に本格的に株式投資を行うようになった。私は勤労所得以外の収入の重さを思い知ったのである。

そうは言っても、素人が株に手を出すとしばしば痛い目に会う。私も随分と「勉強代」を払った。

しかし、厳密に言えば、株を取引しなくても、口座を持っているだけでメリットがある。それこそほぼ絶対安全なローリスク資金運用だ。そこから始めて徐々にハイリターンの道を選べばよい。

この本を読んで、あなたの収入を増やす一助になれば幸いである。

ところで、唐突な質問だがあなたはお金持ちになりたいだろうか？

私はお金持ちになりたい。ロバート・キヨサキ氏が言う「経済的自由」を手に入れたい。しかし、それはゴールでも目的でもない。私にとっては「手段」だ。私のゴールはその先にある。

前述のように私は数年前病気になった。その過程で死のふちに立ったこともある。本書の目的から外れるため詳しい経緯はここでは述べない。いずれ別の機会があればその時発表することにする。

しかし、私と同じ病気のために、不運にも亡くなってしまった人がたくさんいることも知っている。残された家族の不幸も知っている。

私は、もし「経済的自由」を手に入れたら、自分と自分の家族が安心して生きられる状況を手に入れたのなら……残りの収入を、私と同じ病気により亡くなった人の遺族のために役立てたいと思っている。それが私の目指すゴールだ。

そのためには少しでも早くお金持ちになる必要がある。だから、本業以外に株式投資をしている。だが、株式投資はゴールを目指すための「手段」あるいは「道具」に過ぎない。お金を儲けることは決して悪いことではない。だが、私は守銭奴しゆせんどにはなりたくないと思っている。

できれば、あなたにも守銭奴になってほしくない。お金儲けそのものを目的にしてほしくない。それはきつと虚しい人生だろう。

お金を「目的」ではなく「手段」にしてほしい。そして、その先にあなたの「ゴール」を設定してほしい。

さて、ここで一言申し上げておくが、投資を扱った本には暗黙の了解がある。それは「自己責任」だ。本書でもそのスタンスはまったく同じである。

本書でも、いろいろな銘柄を实名で紹介するがそれを買えば必ず儲かるというものではない。

私自身、「かつて」その銘柄で儲けたことがあるという意味で紹介することもあるだろうが、今、その銘柄を買っても利益を上げることにはできないかもしれない。むしろ損失を出すかもしれない。

今現在、執筆中のこの時点で、私が収集した情報からこの銘柄が有望かもしれないと紹介することがあるかもしれないが、社会状況は日々刻々と変化を続けている。特に近年の情報化社会ではその速度は増す一方だ。

私は預言者ではない。間違ったことを書くかもしれない。

だから、私の書く内容は「参考」程度に考えてもらいたい。最終的に判断するのはあなたであり、最終責任もあなたにある。

そのことだけは肝に銘じてもらいたい。

今すぐネット証券口座を開きなさい

もくじ

第1章

まずはローリスク投資から

13

1 MRFは高利率 13

2 日経平均を買う 18

3 ドル・コスト平均法を使って買う 24

4 ミニ株で投資する 37

5 安定株を長期保有する 39

6 「株は永久に持つのがいい」 48

第2章

超短期で利益を狙う

53

1 スイングトレード 56

2 デイトレード 65

第3章

## 外国株

- 3 ダイレクトアクセストレーディング 70
- 4 信用取引は本当に危険か？ 74
- 5 空売りは本当に危険か？ 76

81

第4章

## 情報収集

- 1 ニュースの鮮度は？ 89
- 2 インターネットは情報の宝庫 90
- 3 テレビ番組が株価を変える 92

89

# 実践株取引

1	証券会社はどこを選ぶか	95
2	どの銘柄を選ぶか	100
3	最近のニュース	105
	あとがき	123
	あとがき追記	125
	電子書籍版あとがき	128

第1章

# まずはローリスク投資から

## 1 MRFは高利率

すべてを始める前に、まず質問がある。

「あなたの毎月の収支はどれくらいですか？」

もし、あなたの毎月の収支がマイナスならこの本を閉じ、先に進むのを止めていただきたい。

そんな状態で投資などできるはずがない。投資を扱った本ではなく、儉約について書かれた本を読むべきだ。

まずは生活を見直し、せめてプラスになるようにするのが先決だ。

黒字だとしても、残る金額が1万円以下ならやはり生活を見直してほしい。無駄を切り詰めて毎月1万円くらいは残るようにしていたきたい。そして貯金ができるようにしてほしい。

貯金ができたら、証券会社に資料請求して口座を開こう。

理由は簡単だ。銀行に預金するより証券会社のMRFの方が、利率が良いからだ。

口座が開設できたら貯金をMRFに入金する。

「投資は危険だ」「危険なことはしたくない」と思っている人はここで止めてしまっても構わない。それはあなたの自由だし、あなたが選択することだ。

ここで言いたかったのは「MRFは利率が良い」ただそれだけだ。

重箱の隅を突つくようなことだが、ここにもリスクはある。証券会社は絶対に倒産しない、そんな伝説はすでに破られた。かつて山一証券が倒産した。それは歴史の事実だ。

この世に絶対とか確実なものはない。ただ、「ほぼ確実」なことはある。

私個人が考えた「ほぼ確実」なことは、「野村証券はほぼ絶対に潰れない」だった。だ

から、私が一番初めに開いた証券口座は野村証券だった。

繰り返しになるが、MRFもリスクがないわけではない。だが、MRFは銀行の預金感覚でできる。実際問題この段階で投資だと思ふ人はあまりいないだろう。

さて、ここまでインターネットの話がまるで出ていない。インターネットを使わなくてもここまでのことはできるからだ。

しかし、本書は『今すぐネット証券口座を開きなさい』だ。インターネットの有利さを紹介しよう。インターネットの大きなメリットは時間の短縮と手数料の安さだ。

だから、インターネットをやったことがない人はぜひ始めてほしい。機械が苦手パソコンが扱えないという人も何とか覚えてほしい。パソコンを持っていない人は買ってほしい、ネット回線を持っていない人は開いてほしい。

ここでもパソコンは必須の条件ではない。携帯電話でも代用できることは多いだろう。私も、どうしても外出が必要な場合、外から携帯電話で株式注文をすることもある。

しかし、本書ではパソコンを前提にしている。理由は操作性の高さだ。後述する楽天証券のマーケットスピードの便利さは携帯電話では代用できない。

これも必須の条件ではないが、ネット銀行に口座を開こう。

私の場合、ネット専用銀行のジャパンネット銀行とイーバンク銀行の口座を持っている。それと、ネット専用銀行ではないが、三井住友銀行のインターネットサービスを利用している。これも時間の短縮と手数料の節約が可能なためだ。

これらのネット銀行を持っていると、証券会社への入金手数料が無料となる場合があるし、入金手続きを済ました直後からそのお金を使って株式取引ができる（いわゆるリアルタイム入金）証券会社がある。楽天証券は、今のところ、ジャパンネット銀行のみでリアルタイム入金が可能で入出金手数料もかからない。

これはすべての証券会社でできるわけではないので、口座開設の前によく確認しておく。

余談だが、ネット銀行を持っているとYahoo!オークション等の決済も便利になる。

後で触れるが、株主優待サービスを持っている会社がある。鉄道会社などは割引乗車券などを配当とは別にくれる。ところが、私にはこの割引券を使う予定がないとする。

そこで、Yahoo!オークションに出品すると売れることがあるのだ。

さらに話が逸れるが、私は株式以外にも副業としてネットオークションで商品を売っている。残念ながらこの副業はやや赤字だ。もし黒字なら、ネットオークションショップ出店手引書も執筆するところなのだが……。

それはさておき、逆にYahooオークションで欲しいものを落札することもある。すでに絶版になって入手困難な書物などが出品されていけば落札することもある。ここでもネット銀行が活躍するのでぜひ開いておこう。

ここまできて、やっと本書の前提条件が整ったと言える。インターネット環境とパソコンを準備し、証券会社のネット口座とネット銀行の口座を開く。本書の先を読む場合これくらいの準備はしておいてもらいたい。

この条件をクリアしたら、次の質問だ。

「あなたの貯金（余裕資金）はどれくらいですか？」

あなたの貯金は100万円以上あるだろうか。100万円以下なら、せめて100万円になるまでは投資に手を出さず、貯金に集中しよう。

先ほど述べた、ネット口座のMRFに預金しておくのがリスクも少なく利率もいい。当然のことだが、預金の額が大きいほど利息も多くなる。100万円程度あれば、それなりの利息となるが、あくまでそれなりだ。充分とは言えないだろう。

## 2 日経平均を買う

さて、余裕資金が100万円ほど蓄えられただろうか。余裕資金は多いほどいいが、最低でも100万円は用意しよう。再三言うがあくまで余裕資金だ。

その意味するところは、たとえ投資に失敗して0円になっても生活に困らない資金ということだ。

株式投資に絶対はない。株を始めれば、自分は必ず儲かると大抵の人は勘違いする。私も最初はそう思っていた。だが、世の中そんなに甘くはない。負けることも多々あるのだ。ここはあくまで、ローリスク投資法の解説だ。いきなり大金をつぎ込んで、失敗して破

産してしまつては元も子もない。

では、株式売買の大原則を記そう。

「ある銘柄を安く買って、高く売ればいい」

ただそれだけだ。問題はいつ買えば安く、いつ売れば高いかが分からないことだ。これがあらかじめ正確に分かつていれば全戦全勝だ。でもそんなことはありえない。だから、勝つたり負けたりするのだ。

では、実際に株を買ってみよう。

2006年2月現在、私が初心者に薦める銘柄は日経平均だ。

理由は、情報の収集が簡単なこと。個別銘柄と違い、暴騰・暴落の変化が少ないこと。

ここまで順調に回復し、上昇していること。さらに、ほとんどの経済評論家が今年中に2万円に到達すると言っていることだ。

一応、解説しておくが、経済評論家の意見は当たらないことがままある。理由のひとつが、経済評論家の数だけ予想があるからだ。

株価は「上がる」と言う評論家がいると同時に、まったく逆に「下がる」と言う評論家がいるというのが普通の状態だ。

どちらの評論家もそれなりの根拠に基づいて発言している。自分の予測が間違うとは思っていないだろう。だから、どちらが当たるかは実際にその時になってみないと分からないということが多い。

その評論家たちがそろって2万円は行くだろうと言っている。かなり確かな情報とみていいだろう。

私も行くような気がしている（言っておくが、私は名の知れた経済評論家ではない。ただの一般投資家の一人だ）。

だから、私の保有銘柄に日経平均が含まれている。正確には上場インデックスファンド225（1330）である。ここで、（）内の1330という数字は、日本の株式銘柄を示すコードだ。

株式を注文する際、銘柄を区別するため、日本では4桁の数字のコードを持たせている。この他、例えば新日本製鉄はコード（5401）といった具合だ。

日経平均と上場インデックスファンド225（1330）はほとんど連動して動くことになる（次ページの図1が日経平均、図2が（1330）のチャートだ）。

なお、この図は楽天証券の専用取引ソフト、マーケットスピードから転載させてもらった。

このソフトは、楽天証券に口座を開設して、ダウンロードすれば株価の変動を見ることがもちろん、株の売買も行える。マーケットスピードは非常に強力なソフトなので、本書では今後チャートが出てきたら特に記述が無ければマーケットスピードを使用させて頂いている。

楽天証券に口座を持たなくても、無料のサービスも多数ある。私が良く使うのはYahoo!ファイナンスのサイトだ。ここでは、若干の制約を受けるがほぼ同様のチャートを無料で見ることができる。

これは正確な表現ではないかもしれないが、私は「日経平均を買う」ということと「上場インデックスファンド225（以下（1330）と略す）を買う」ということを同じ意



図1 日経平均



図2 上場インデックスファンド225 (1330)

味で使っている。

(1330) は2006年2月18日現在1万5890円である。この株は通常10株単位で取引されるので最低単位の10株買うためには15万8900円必要になる。これに売買手数料がかかる。

売買手数料は証券会社により異なるので自分が選択した証券会社の条件を確認しておく。だから、概算で16万円前後で(1330)を買うことができる。

当然だが、売買手数料は原則、買う時も売る時もかかる(ライブドア証券などのように、手数料を数ヶ月分先払いしておいて、その期間内は何度取引しても追加なしという契約をしている証券会社もあるが)。

また、株を売却した時、利益が出ていれば税金がかかるので、注意が必要だ。

さて、まだどうなるか分からないが、(1330) が2万円になったらどうするか。

私はその時判断すればいいと思う。

2万円というのは、キリのいい数字だ。こういうキリのいい数字では、それまでの傾向が変わることが多い。だから、2万円になったら売るという選択も考えられるし、もっと

# 途中省略

本編はダウンロード時間短縮のため省略版でお届けしています。  
途中省略なしの完全版をご希望の方は製品版をご「購読」ください。

## 著者プロフィール

### 翼打 正三 (よくうつ しょうぞう)

本業はエンジニアという30代後半の普通のサラリーマン。「サラリーマンがどうやってデイトレできるの?」と思われるかもしれないが、その質問にはお答えできない。

既刊の著書に、闘病記『シュレーディンガーのうつ病患者』(星雲社、2006)がある。

## 今すぐネット証券口座を開きなさい

---

2007年3月31日 電子出版発行

著 者 翼打 正三

発 行 者 瓜谷 綱延

発 行 所 株式会社文芸社

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-10-1

電話 03-5369-3060 (編集)

03-5369-2299 (販売)

<http://www.boon-gate.com>

© Shozo Yokuutsu 2007 Corded in Japan

ISBN4-286-01798-2

(文芸社発行の通常書籍(紙の本)については、全国書店でお尋ねいただくか、「文芸社ON-LINE」サイト、<http://www.bungeisha.co.jp>を御参照ください。)